

2022 年度特許フォーラム

特許動向調査委員会主催による「2022 年度特許フォーラム」を、2023 年 3 月 3 日に東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区）にて開催した。昨年度に引き続き、会場の講演をオンライン配信するハイブリッド形式とした。当日は賛助会員や一般から募った参加者を中心におよそ 50 名の方にご出席いただき、光産業界における特許権への関心の高さ、企業戦略における知財管理の重要性を認識していただいた。

はじめに、光協会副理事長兼専務理事小谷泰久の挨拶、特許動向調査委員会 児玉泰治委員長から委員会の活動および調査概要の紹介が行われた。続いて、光産業の中でも近年注目を集めている、「光通信ネットワーク」、「入出力デバイス」、「レーザ加工」、「光センシング・計測」の 4 分野について、担当委員から調査報告が行われた。日米欧中の 4 極において公開された特許情報を中心に、各極における出願件数、出願人の国籍や所属組織（会社・研究機関）などの様々な情報について収集・分析を行い、各国・地域における特許出願動向から見えた市場動向やビジネスターゲットなどの内容が報告された。また、それぞれの分野において、動向調査の深掘りや知財観点からみた今後の注目技術などをトピックスとして紹介した。

続いて、特別講師として新潟県立大学国際経済学部の細谷祐二教授をお招きし、「グローバル・ニッチトップ企業の知財を含むビジネス戦略 —いかに差別化を図り模倣を防ぐか—」のテーマでご講演いただいた。経済産業省地域政策研究官としてのご経験を基に、日本のものづくりニッチトップ型企業がその地位を築き上げ、また、それを保ち続けるために用いたビジネス戦略について、知財の観点を含めてお話しいただいた。実在する企業の具体例を多数ご紹介いただき、継続的な技術開発は必須であるが、ライバルに技術を盗まれないために敢えて特許化しない戦略をとる例など、非常に興味深い内容であった。講演後には活発な質疑応答も行われ、盛況のうちに終了した。

